

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として…互いに仕えなさい。」（ペトロの手紙4章10節）

○「元気のもと」を育む…ありのままの子どもに満足する



子どもたちが元気に育つ秘訣は色々あるのですが「親から満足され、愛されている実感」が第一に重要で、子どもを大きく成長させると信じています。子に期待しない親はいません。日々、子どもと接していると、子どもの弱点や直してもらいたい所、やめてほしいことなどが目につくことがあるでしょう。しかし、その

ような「子どもの短所・弱点」にばかり注目してしまう子育ては避ける必要があるでしょう。親に注意されてばかりでは「僕は悪い子・できない子なのではないだろうか」と子どもの心には「悲しみのもと」が生まれてしまいます。心構えとしては、親がまず子どもの「よい面（神よりの賜物）」を見つけて、「子どもと一緒に」喜びを見いだしながら日々の生活を送ることが大切でしょう。

私事で恐縮ですが最近、4歳の長男が洗い物をしてくれます。非常に微笑ましいことなのですが、困ったことに先日は就寝直前の8時45分に「洗い物がしたい」と言いました。皆を寝かしつけてから取りかかるつもりでしたが、見つかってしまっただけでは仕方ありません。20分かけて一緒に洗い物をしました。園長として子どもについて学んでいなかったとしたならば、「もう寝る時間だから明日はよろしく」と言って泣きじゃくる長男をなんとか説得して寝かしつけていたことでしょう。しかし、それが子どもにとって「悲しみのもと」（親が喜ぶと思って子どもがせっかく提案してくれたことを『それはいらぬ』と切り捨てる行為!）と知ってしまいましたから、実践せざるを得ません。正直、一緒に洗い物をするのは骨がおれませんが、それで満足したのか、次の日は早く寝ることを約束し、洗い物が終わったらすぐに眠りについていました。早く寝ることはもちろん大切ですが、ときによってはそれよりも重要なこともあるのです。よくよく考えてみると、子どもを早く寝かせるために色々なことを我慢させ、子どもに不自由を感じさせていたか・・・反省させられた出来事でした。大人でも「元気」や「やる気」は人から「愛され」「喜ばれている」という実感から湧いてくるものでしょう。最初は難しいですが、コツがわかれば楽しくなります。子どもの要求は限度があるようで、ある程度叶えれば満足して次から要求しなくなる傾向が多いようです。小学校入学までの間は子どもの要求は全て叶えるくらいの気持ちで接するとよいという研究もあります。「元気のもと」を育むために子どもに仕えることの大切さを思いました。麻生明星幼稚園 久保哲哉